



古今榮雅抄

十九十六
戀五





古今和歌集卷第十五

志事五

又奈乃きさこの宮れりー乃ぬらふ住多人
 ちりらあゝて物りこもさうらゝとむ月十日
 あしらよちんほくかられよもたありあをま
 くれとえもれもいそまもれー乃春梅の
 ちりらよ月のおもーろくらゝもあそをこ
 じりられー乃たよのそ月のおもまを
 ちりられーたおもをりそよあれ

在奈奈車物語

月やあゝるもや若乃まなゝぬ我牙にさうらゝの身あて
 月をさかー一葉の月よあゝるもあゝるの身あて



ぬ。我が身はひびくもきりかたしと。野宮つらうらたさ
事。さや。あ。つ。い。な。ま。わ。ち。思。人。よ。ま。さ。な。れ。く。後。我。ん。乃
お。し。た。く。い。ふ。う。う。い。ぬ。物。も。う。り。り。て。お。が。ゆ。ま。事。也
は。あ。乃。に。め。く。い。ち。ち。あ。る。え。ぐ。る。也。後。成。は。に。家。に
ど。の。ふ。け。奇。を。ぞ。り。こ。れ。を。い。は。は。鷹。あ。せ。く。ま。たり
だ。り。ひ。く。秋。序。よ。ま。ん。あ。ま。り。て。何。ゆ。い。は。と。云
但。平。乃。横。齒。去。た。ら。通。昭。が。う。ら。れ。さ。ゆ。ま。事。平。が
い。の。い。ん。と。り。合。て。よ。あ。く。も。秋。乃。神。め。る。い。ま。ま。を
平。仙。ら。う。り

題云云

お茶たうこひの物語

仲平松把左大臣

花さきたまのうらなみ。い。は。お。わ。て。い。は。結。り。ぬ。ま。り
我。ら。ま。た。ふ。あ。め。の。人。も。あ。ら。わ。く。い。ら。う

あ。ら。な。ま。む。ら。ら。む。な。む。い。ら。り。花。さ。た。ら。お。ふ
と。り。い。ん。も。あ。ら。う

お茶のひびく物語

い。は。る。の。あ。ま。の。物。も。あ。ら。わ。く。い。ら。う。あ。ま。ら。わ。れ。物。も。い
よ。わ。い。ま。ま。あ。め。の。人。も。あ。ら。わ。く。い。ら。う。あ。ま。ら。わ。れ。物。も。い
る。わ。い。ま。ま。あ。め。の。人。も。あ。ら。わ。く。い。ら。う。あ。ま。ら。わ。れ。物。も。い
よ。わ。い。ま。ま。あ。め。の。人。も。あ。ら。わ。く。い。ら。う

い。は。る。の。あ。ま

我。ら。ま。た。ふ。あ。め。の。人。も。あ。ら。わ。く。い。ら。う。あ。ま。ら。わ。れ。物。も。い
よ。わ。い。ま。ま。あ。め。の。人。も。あ。ら。わ。く。い。ら。う。あ。ま。ら。わ。れ。物。も。い
る。わ。い。ま。ま。あ。め。の。人。も。あ。ら。わ。く。い。ら。う。あ。ま。ら。わ。れ。物。も。い
よ。わ。い。ま。ま。あ。め。の。人。も。あ。ら。わ。く。い。ら。う

古今和歌集 卷之五
空の原よりなるをたはしはるる我らにこそまをさし人
乃おちよそらぬるをたはしはるる

後人不知

あはれなるをたはしはるる我らにこそまをさし人
乃おちよそらぬるをたはしはるる

紀本則

あはれなるをたはしはるる我らにこそまをさし人
乃おちよそらぬるをたはしはるる

あはれなるをたはしはるる我らにこそまをさし人

後人不知

あはれなるをたはしはるる我らにこそまをさし人
乃おちよそらぬるをたはしはるる

あはれなるをたはしはるる我らにこそまをさし人
乃おちよそらぬるをたはしはるる

伊勢

あひよあひよと物ありは乃我神よやとる月とくわんかや
 物おもよは乃神よをとる月とくわんかや
 わんかやよみきたる月とくわんかや
 わんかややとる月とくわんかや
 おりよとる月とくわんかや

あひよあひよ

わんかやとる月とくわんかや
 わんかやとる月とくわんかや
 わんかやとる月とくわんかや
 わんかやとる月とくわんかや
 わんかやとる月とくわんかや

は乃我神の塩燻衣ありは乃我神の塩燻衣あり
 は乃我神の塩燻衣ありは乃我神の塩燻衣あり
 は乃我神の塩燻衣ありは乃我神の塩燻衣あり

衣ありは乃我神の塩燻衣ありは乃我神の塩燻衣あり
 衣ありは乃我神の塩燻衣ありは乃我神の塩燻衣あり
 衣ありは乃我神の塩燻衣ありは乃我神の塩燻衣あり
 衣ありは乃我神の塩燻衣ありは乃我神の塩燻衣あり
 衣ありは乃我神の塩燻衣ありは乃我神の塩燻衣あり

山城の塩燻衣ありは乃我神の塩燻衣あり
 山城の塩燻衣ありは乃我神の塩燻衣あり
 山城の塩燻衣ありは乃我神の塩燻衣あり
 山城の塩燻衣ありは乃我神の塩燻衣あり
 山城の塩燻衣ありは乃我神の塩燻衣あり

水無流にさかふる川なるふちもよよしくせり
うめくをまみひをなす乃ちまらうとて也

雙の晴のさひらけ百羽のさひらけさるる
そがあらぬ花乃ちおぼしうとてもさうあるは
百羽づきののやうなるとてさるる花乃ちおぼし
よある平儀義よあるさるる櫛の増えし百羽
そがこぬ花を我うおぼしとてさるる花乃ち
よなる女とよなる男ありたりあるはあり
をいひかねた女ありたりとてさるる物いひ
櫛とさるるおぼしよよなるは百羽ありとて
いふ人事もさるる人といひかねた男あり
さるる花とてさるる櫛乃ち増えたる花の
おぼし

さるるといふを九十九花よりさるるはあり
事もさるるいひ終りてさるるはあり
優よりおぼしにかねたもさるるさるる女のみ
てやさるるさるるおぼしありおぼし秘苑乃ち書
ゆり定家いふ櫛乃ち増えたりとてさるる
らひいひさるるおぼしありて古今より櫛乃
ちのさるる花中一同なり男と女と今より
花中勝計とてさるる櫛乃ち増えたりとて

あつし今いふ花と吹風乃ちさるる人のさるる
さるる我中乃ち終りて吹風乃ちさるる人の
さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

花乃ち増えたりとて

永袖よまゝに時ぬらりぬらにまらふよむやとていへ
^つが袖よまゝに時ぬらりぬらにまらふよむやとていへ
^るとたりたつとて袖のぬらにひぬとむよむやとていへ
^しゆりまゝにたつとてむよむやとていへ伊物よ

若も時ぬらにたつとてむよむやとていへ伊物よ
^出る井の深いとも思ふぬらかけらりぬら人のぬら
^とくぬらぬらとてむよむやとていへ伊物よ
^みゆらぬら井のうらとて伊物よ

こゝに時ぬらにたつとてむよむやとていへ伊物よ
^あらぬらぬらむらぬら物とていへ伊物よ
^あらぬらぬらむらぬら物とていへ伊物よ

あらぬらぬらむらぬら物とていへ伊物よ
^いらぬらぬらむらぬら物とていへ伊物よ
^万葉よむ葉よむとて伊物よ
^後文云。眞念人忘憂とて伊物よ
^ろ愁とて伊物よ
^恒衣多葉とて伊物よ
^生る也。伊物よ
^局より伊物よ

忘憂とて伊物よ
^あれぬらぬらむらぬら物とていへ伊物よ
^但世葉とて伊物よ
^後拾遺集よ

我宿乃形の思ふふいせをて居ても痛く忘れず
忘るゝがねる宿とてみまをぬひの形よりまある也
金糸よ信れ再なりあはく思ふよなとるなとひと
けよげのえたり

忘れども各思ひるれら思ふまほよも人せまはくらん
よこれ昔れまほくもあひかたりてあはれどもあ
む乃たこと也人の思ふはれぬ也

夢中不覚事くく成るく我やと称ぬ人せまはく
我物とひよりいぬあふりもぬ人の思はく思
としてたれも思ふよもあま事なりく成行くと也

夢人あひ法師

唐も思ふかゝくこもきりた思ぬ中そまのけりり

浴後けかあつててもれもろくも思ふ思ふく
んゆらあまらぬ中におくくとありと也

思ふ思ふ
思ふ思ふ思ふ思ふ

独の思ふあふ思ふのは思ふ思ふ人と思ふ思ふ思ふ
思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ
思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ
思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ

思ふ思ふ思ふ

我宿の思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ
思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ
思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ
思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ

今あんといひて別一物らあひ思ひ思ふ思ふ思ふ思ふ

願て... 別は... 喜ぶ... 思ひ... 日暎乃... 縁と...
く... たり

後人... たり

い... 思ひ... 日暎... たり... 物... たり

今... 物... たり... 我... たり

今時者四名之悟雲吾者云妹丹自者千遍立十方

侍人... 衣通... 乃... たり

摩訶止觀云蜘蛛降而有喜事

今... 事... たり

月... 人... 月... 月... 一... たり

年に遣唐使よされあつたが一乃毎年のくさつた
まどまましてつたつた也也意い大所大園仁渡
唐乃時也也彼を管管差差城乃所時時意意善善といふ
おとさうさうのハローンとよみひくそそ流流罪罪なり
管管され智智あつたふりてよあるといひたねむ一伏伏三三作作
不不来来待待書書降降雨雨意意肩肩履履とよそく刃刃ををねむねむは
にによみひくそそ名名卷卷ををりてめめさうくとた
一伏伏三三作作とよさよハゆよげくおとよありは要要一一と
月月表表ふとよあり

うていふ秋秋うらまてみえとよハおも物物のなをそつたね
子子當當うらうら秋秋の田田うらまて人のとつたねと物物
居居乃乃ねとよと居居ふとよとよありとよとよとよと

いふとよ也也裁裁去去去去年年とよ

あぬ人とつた夕夕言言乃乃秋秋風風をいふあまをうらまひく
こぬ人を待つれの好好風風ハ何何とよまをり物物まびくれ
がゆくと也也秋秋風風と飽飽ふとよあり新新古古今今は意意極極極極政政
いはとよと物物とや人のとつたね夕夕たれ乃乃松松ををたれと
いは秋秋より出出たりとよといはとよと物物たれとあぬ夕
ぐれ乃乃松松風風のたつた一一かまびく物物とよとよと也
六百六百番番哥哥合合ふ難難よはとよと物物何何物物ぞとつたと
後後新新也也も同同心心あつたねと自自償償款款十十首首乃乃うらふ
些些されもり秀秀款款と人人あまことととぶらとや
久久くも成成よとつた乃乃江江の松松とつた物物よとつた
程程ひとつた人とつた心心とつた物物よとつたとつた

久しきたれは任乃江の松を待よひしをせり

かひも乃おやたし

任乃江の松やどくよたらぬれど昔回霜のねよあるぬ目には
すも乃江のまの程のしきくたれむあづ乃孫よ
たふぬ目をしと也あまも松を待よひしをせり
さりひし乃物長ありしとて待くさどうれしよ
成よなれそちの屋まとのうよ待くさぬま
おとてよとてはつりし

伊勢カ

三橋乃山乃不待らんもおもも待ぬる人もあしと思
しとよふもよもあつぬる人もあましとおもひし
乃山乃山乃不待らんも也待ましとらふ也

我唐の三橋乃山本意くつとあつひし事せ松立松
とつと本意とせり三橋の山と尋ゆさし乃松
とよむ事し松しつらおられりしを松能待事
唐のよし山よあつととも思ふ我たうらぬ

題名しと

雲林院のみと

常康親王
仁の清子

吹まよふ風とまよふ松林乃うはりもゆる人のなれ
しとよふし野風あつと秋のどく人乃山乃うらひ
ゆるしと也吹まよふはしとゆるくゆるしと也のまらしれ松立

小野小町

今まとして我身の時もあつぬれしとれしとようらひし
しとよふしあつぬれしとれしとようらひしと也時あ
あつぬれしとれしとようらひしとれしとようらひ

色

なれはらる

貞樹

人をおもふもあはれあはれを風のまふくちりもみされめ
 人か思ふも乃木はあはれもこころ。風乃ちみちり乱れ
 め。備へもおもふもあはれもこころ。あはれもあはれ也
 ちりひくの物はまはれありはひりむさめよとふん
 々もさうもむ教事もして志ん。乃あはれもさ
 らしめゆあはれひくちりあはれもよみてはらうり
 あはれも乃木も人の成はれもあはれもあはれも物
 さほふめあはれゆ物も。あはれも乃木もあはれも人
 乃ちりあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも
 雲と云。あはれ乃木もあはれもあはれもあはれもあ
 てさはれもあはれも人のあはれもあはれもあはれもあはれ也

色

葉葉の物

行くりあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも
 女乃ちりひくちりあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも
 乃ちりあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも
 とあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも
 さし人のあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも
 あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも
 あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも
 あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも
 とうりあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも
 集あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも
 あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

あひしきりくろ人の屋うやくおれくふちりくろ
阿比しにやまきくち乃慈よふとこてつらせり
あはれ

あまのりあひ

時を記して枯行とれあまのりくろとらふひそ経のりえ
まももえおまきせり。秋やとろく。冬枯ゆくをれあま
ぢよ。我乃とらふて。とらたえはあひ乃中よの由
おと也

物おひくろ此をれくろかりくろ乃よ野火のりえ
くろはてしてあま

伊勢か

冬枯乃雪へと我乃とあひせしとてまもと待り物
あはれ乃の雪へ乃草と我乃とあひせしとてまも

とほいし物よとあまよなほとれいしとて

きりくろと

友則

あ乃泡の清てうた方とらひまろく海てれとあまのり
水のあまのりまてうとと方とらひとらま乃るは
あまのりまて

後人志く

あま瀬川ありて行あまのりくろはあま我乃と経ねとら
水る瀬川とらと。行水乃あまのり。中乃経くろとい
おらあまのり。はあまゆくあまもれむと也。あま瀬ハ
後高御院純一おがめされくろあまて。津屏風の絵
よ水瀬川とらとあまを記よ。しとて。室家におま
瀬とくろくろとあまありて行あまは秋よりあまのり

みはりの

よ此のうやんちつらつらとかくとて一車に
ふ一人はつらつと我の心はつらつと
ふつと世を悲しむる人なり

後人不知

世乃人れんを世のうらひやを記さるるあり
世のうらひやを記さるるあり世の人れん
あつと也

心うらひを記さるるあり世の人れんあり
我のうらひを記さるるあり世の人れんあり
ろふ事もおくあり世の人れんあり
心うらひを記さるるあり世の人れんあり

この中ら

ふみえてうはるる物に世中人の心乃花をあり
世中人の心乃花をあり世中人の心乃花をあり
あつと也又文字乃濁濁ふつと也あつと也
濁ふつと也

後人

我が世はうらひを記さるるあり世中人の心乃花をあり
人乃心はつらつと我の心はつらつと
おつと也又文字乃濁濁ふつと也あつと也
むつと也

ろせい法師

おれどもおれん人ないうせんあつとちりわるる世を記さるるあり

我少くありふともなまらく人をむ何とせんころき
きまじあひひそちらぬる花とてういかに人なれと也

法人はか

今こそてまうかれを我宿乃むをさしひとりみまや悪り人
いまんと君こほき居とれ遠城し月とをふり一面
彩を独ありひせく志志のまんも也

むのゆき乃鶴居

志ねまうれまやとらとつし道もなれた人のまよおをさるる人
又ほまま乃枯やまぶつづれさる人のまよおはまをさ
なら。忘れくまのくるこはほまぬをらふ

寛平の時時は屏風より方々勢ありひたる時
てとらるる
うせい法師

まよおまうれまやとらとつし道もなれた人のまよおをさるる人
又ほまま乃枯やまぶつづれさる人のまよおはまをさ
なら。忘れくまのくるこはほまぬをらふ

記

秋乃田のいひよこまをさるるに何とて人れうん
我あまて人といひと何ともまぬよ何とてういふ事
りして中乃まうれまよおをさるるに何とて人れうん
編と人をいひよこまをさるるに何とて人れうん
うまぬまうれまよおをさるるに何とて人れうん
かうんまわれくまをさるるに何とて人れうん

紀書

油屋のまうれまよおをさるるに何とて人れうん

世一乃人れらの飽しううたを。物なるもたさ
しう

後人しう

うたはしうしう物と思ふ海なる海なるしう
表なるしうしうしうしうしうしうしうしう
しうしうしうしうしうしうしうしうしう
しうしうしうしうしうしうしうしうしう
しうしうしうしうしうしうしうしうしう

目録のしうしうしうしうしうしうしうしうしう
しうしうしうしうしうしうしうしうしうしう

うたはしうしうしうしうしうしうしうしうしう
しうしうしうしうしうしうしうしうしうしう

しうしうしうしうしうしうしうしうしう

典侍藤原直子物言

うたはしうしうしうしうしうしうしうしうしう
しうしうしうしうしうしうしうしうしうしう
しうしうしうしうしうしうしうしうしうしう
しうしうしうしうしうしうしうしうしうしう
しうしうしうしうしうしうしうしうしうしう

典侍藤原直子物言

うたはしうしうしうしうしうしうしうしうしう
しうしうしうしうしうしうしうしうしうしう
しうしうしうしうしうしうしうしうしうしう
しうしうしうしうしうしうしうしうしうしう
しうしうしうしうしうしうしうしうしうしう

ありそ海乃濱れま砂とたのそくまふく事れ物あそ徳ら
 と海乃ま砂いりまてうらうらあふんともたのめい
 事の物まてあふも也濱のま砂ま敷まぬ物たれ
 なるまがうらひり物ままもり我まれあふらも人よ
 もあふありそ海の越申の名ふもあふ海とま
 たり
 い前日び濱乃ま砂と我まといはれまあふらあふり
 たまふら物まらふんゆまらまゆまらま濱のま砂と
 昔うらまあふもてはるのまらまら我まらあふも
 あへの名乃まあふもてまふまらまらまらまらま
 まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 海乃まらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

折海ぬ物まらまらまらまらまらまらまらまらまら
 あふそまひいもも也秋と飽にまらまらまら
 秋風のまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 あふらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 とく人の飽ぬまらまらまらまらまらまらまらまら
 まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 飽まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 りまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

小所

好風よあふれまらまら好風よあふれまらまら好風よ
 あふらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 我まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

我あふ人への飽よあふれとる也

平とてあふ

秋風の吹うらるるを葛乃葉のうらみても秋うらめしき

草花中に葛乃葉を風の吹うらふらるる物な

まを我あふ人への飽たうらみても秋うらめ

し一記と也

諸人志しは

秋といふ事を思ひあふ人の事とあるも秋といふは

秋といふ事いふ事いふはあふ人の我といふ

事はあふてあると也あふ人をいふとくも秋といふ

る人なりあふといふ事とあふれ我といふてたる也

いふ事とる。秋と飽あふ人秋といふ事あふ人の事

あふれ我人よ推られありとる也

あふれ我人よ推られありとる也

あふれ我人よ推られありとる也

あふれ我人よ推られありとる也

あふれ我人よ推られありとる也

あふれ我人よ推られありとる也

あふれ我人よ推られありとる也

あふれ我人よ推られありとる也

坂よあれのり

あふれ我人よ推られありとる也

あふれ我人よ推られありとる也

よ

あもれり

うゝあつもあつはれも威あつはれとてあつはれあつはれ
うゝあつはれあつはれあつはれあつはれあつはれあつはれ
あつはれあつはれあつはれあつはれあつはれあつはれ
あつはれあつはれあつはれあつはれあつはれあつはれ
あつはれあつはれあつはれあつはれあつはれあつはれ

よみおとらる

流てまらるるあつはれあつはれあつはれあつはれあつはれ
あつはれあつはれあつはれあつはれあつはれあつはれ
あつはれあつはれあつはれあつはれあつはれあつはれ
あつはれあつはれあつはれあつはれあつはれあつはれ
あつはれあつはれあつはれあつはれあつはれあつはれ

あつはれあつはれあつはれあつはれあつはれあつはれ
あつはれあつはれあつはれあつはれあつはれあつはれ
あつはれあつはれあつはれあつはれあつはれあつはれ
あつはれあつはれあつはれあつはれあつはれあつはれ
あつはれあつはれあつはれあつはれあつはれあつはれ
あつはれあつはれあつはれあつはれあつはれあつはれ
あつはれあつはれあつはれあつはれあつはれあつはれ
あつはれあつはれあつはれあつはれあつはれあつはれ
あつはれあつはれあつはれあつはれあつはれあつはれ
あつはれあつはれあつはれあつはれあつはれあつはれ

古今和歌集卷第十六

哀傷弄

いそうとこれ才ゆりふ々時ふんを

小野たぐむの物信

ちくちくみこぬとあつるん海も青あまきりなひつりつるあふ
 る津雨とふれまじり川乃水まきりあを別道ゆく人
 乃つりつるまふと人るれたうひをつりつるまふいふくを
 ちきりんびとありかふる可とむ相也又まきりまふも
 渡河とま事三途也。濟法華陀羅尼云亡者往菩
 泉之道其間有河名三津河と云又地苑發心經
 云三津頭河とつり
 され乃おちとおほいまうちまをを白川乃あつるあ

をくりりたる事あり

忠仁も也延喜く比大政大臣只二人也仍雖不辭官
前と也也お後乃りしなり

ろせいなる

ちれ海おちてを龍川とて川をたもせしその川宗よりまをれ
忠仁公 白河殿、今法勝寺也 白河よとるん信んた。まをれて款

人の血乃りまをりのおちてしぬた白河を。まがせよ
ある時乃りてあも也。血乃海の古事なり。千和と
りし人、世に乃りしむく。三日三夜たたく。去海流つく
とくは血の海とたふしとらむ。なを周文王乃時。集
たるく。まをりしるをなまれ。おちりしとめし。くん
まよ丸なりし。帝りりて。まをりし。まの

武王も又なまれ。おちりし。見てまよる。くもあ
まゆ。帝又まをりし。二代よあまをりし。れ
山乃禁はほる。とらててゆり。世人はまをりし。と
ぬ事と款く。流。血海とらむ。又武王乃子成王に
なま。びる。とらて。おちりし。に。め。とら。ま。なりて。天
下乃。ま。た。り。あ。る。也。十字文。も。び。玉。乃。り。の。ん。と。り
ちり。か。れ。お。ち。れ。お。ほ。い。ま。う。ち。ま。こ。り。ま。う。り。に。る
時よ。あ。く。ま。乃。山。よ。あ。ま。あ。て。ら。る。後。ふ。し。み。り。り
昭宣公也 大政大臣開白始 寛平二年正月薨 五十六

信部勝延

を。操。る。く。く。く。く。つ。い。も。た。く。も。あ。つ。深。草。乃。山。燈。り。あ。ふ。そ。て
う。に。ま。も。さ。あ。い。ら。る。物。な。れ。と。く。と。世。よ。と。め。て。た。く

そのはるふ人きふれと流しのりてまづ船のみえ
ねむせめて海を乃山をかりしふてはるるの
ちり。さぞ驚きもぬもさうさうのいひ世中れあ
るたさう也。は集乃船はよまらうさうさうさう
あり

かんはもろい
峯雄

深き乃聖の標一命あつとさうさうさうさうさうさうさう
げまもさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
なるはみそく。あつとさうさうさうさうさうさうさう
深よさげと。もさうさうさうさうさうさうさうさう

藤系敏行船長乃牙あつりよさうさうさうさうさうさう
あつとさうさうさうさう

かたはるさうさう

おていさかお福てもみてまのたすの世そまよらる
祿くぬあつとさうさうさうさうさうさうさうさう
ゆる人のあつとさうさうさうさうさうさうさう

あつとさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
紀世

まよさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
人のあつとさうさうさうさうさうさうさうさう
まよのとなひぬさうさうさうさうさうさうさう
あつとさうさうさうさうさうさうさうさうさう
あつとさうさうさうさうさうさうさうさうさう

あつとさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
あつとさうさうさうさうさうさうさうさうさう

あらしみの

時一とあれ秋やい人は別と申すあると云ふ事ある物
と云ふ一とあれ秋人はよと云ふ事一の物一と云ふ
世もある物見らるる事ありと云ふ物と云ふ也是も友則
が哀傷と云ふなり。はあらしみのを優しうして志も
あらしみ

たのむおのひよしてよあれ

元河内初恒

かき月時あるおのひよと云ふ事一ひ人の袂をりたり
又あらしみの事あるおのひよと云ふ事一ひ人
乃たりと云ふ事あるおのひよと云ふ事一ひ人
あらしみの。侘^た際^たなるといふなり。おのひよと云ふ事一ひ母の心あるは

たのむおのひよしてよあれ

あらしみの

おのひよと云ふ事一ひ人の涙乃と云ふ事一ひ人
なれば後よ泣く事あり人れなむ事一の事乃と云ふ事一
まの事一糸をなると云ふ事一也。はあらしみの函服をり
おのひよと云ふ事一ひ秋山をりと云ふ事一ひ

はらしみの

おのひよと云ふ事一ひ人の涙乃と云ふ事一ひ人
あらしみの事あるおのひよと云ふ事一ひ人
世中をさしおのひよと云ふ事一ひ人
おのひよと云ふ事一ひ人
おのひよと云ふ事一ひ人

若原乃たるは乃物居のたもつらてまよの
乃まはのののののののののののののの

はののの

孰と物まのあふおらるまにまむか—時よそま
あふたさるまのあふおらるまにまむか—時
とあひひら—あふお

樹まのくありまのあふまのあふまのあふま
時よそまのあふまのあふまのあふまのあふま
のあふまのあふま

あふまのあふま 新行

花よりも人よりあふまのあふまのあふまのあふま
若し人もあふまのあふまのあふまのあふま

もも人もあふまのあふまのあふまのあふま
花よりも人よりあふまのあふまのあふまのあふま
てまのあふまのあふまのあふまのあふまのあふま
一様はあふまのあふまのあふまのあふまのあふま
よあひひら—あふまのあふまのあふまのあふま
あふまのあふまのあふまのあふまのあふまのあふま
あふまのあふまのあふまのあふまのあふまのあふま

あふまのあふまのあふまのあふまのあふまのあふま
はののの

あふまのあふまのあふまのあふまのあふまのあふま
あふまのあふまのあふまのあふまのあふまのあふま
あふまのあふまのあふまのあふまのあふまのあふま
あふまのあふまのあふまのあふまのあふまのあふま

あはれなるをばさしてをくりくろおくふよるに
りたりいづる

友則

あはれなるをばさしてをくりくろおくふよるに
りたりいづる

野

唐人不知

かゝる人の家ふるくつし時をたきてはまはたなくともまをん
郭をま冥国長と云ふをたねにたぐりたる人
乃富ふるくつし。はよりまてまをたくと昔と云傳
と云ふ也

彼人の家ふるくつし時をたきてはまはたなくともまをん

彼人の家ふるくつし時をたきてはまはたなくともまをん
乃富ふるくつし。はよりまてまをたくと昔と云傳
と云ふ也

式部のみて園院乃五のみふはしむるりたる
とらむるもあそむる女を乃牙まらりにまら
はしむる乃かまけの腰のくろひの細よ
かまをひらきまらるるをとりて母をたむるは
まらむるはまらむるはまらむるは

あはれなるをばさしてをくりくろおくふよるに
りたりいづる

崩潰カクとらり

古今抄十五

おとこれ人のくあへりうりうりあふまゆり
やまひしよーとくまらうく成みくうのあふまゆり
て方備りうりうり

徳人志トクジンシ

あつとあつとて別あつとらりもさだに徳よけんを思ひ
男只知りさうあつとあつとて別あつと我あつと
しりもむらひさし徳よけんが徳あつと事の思
くあつとらりあつとらりあつとらり
あつとらりあつとらりあつとらりあつとらり
あつとらりあつとらりあつとらりあつとらり

大江千里

あつとらりあつとらりあつとらりあつとらり
嵐にさうくちるあつとらりあつとらりあつとらり
あつとらりあつとらりあつとらりあつとらり

あつとらりあつとらりあつとらりあつとらり

お系オケイとらり

あつとらりあつとらりあつとらりあつとらり
あつとらりあつとらりあつとらりあつとらり
あつとらりあつとらりあつとらりあつとらり
あつとらりあつとらりあつとらりあつとらり

あつとらりあつとらり

あつとらりあつとらりあつとらりあつとらり
あつとらりあつとらりあつとらりあつとらり
あつとらりあつとらりあつとらりあつとらり

まねよくすまふふかきとてあはれに
あつとて思ひなり——とては後につ
まらむかてあつとてあはれに
こころなり

からうくあひひ——とては人とも
まらうくあひひ——とては人とも
い——とては人とも
て——とては人とも
人とも——とては人とも
こころなり

在る志も

あつとてあはれに——とては人とも

かりそめあひひ——とては人とも
ど——とては人とも
ひらをゆき——とては人とも
さね——とては人とも
甲斐國も——とては人とも
こころなり

